

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ①

4月検針分（主に2・3月使用分）

用途別の影響

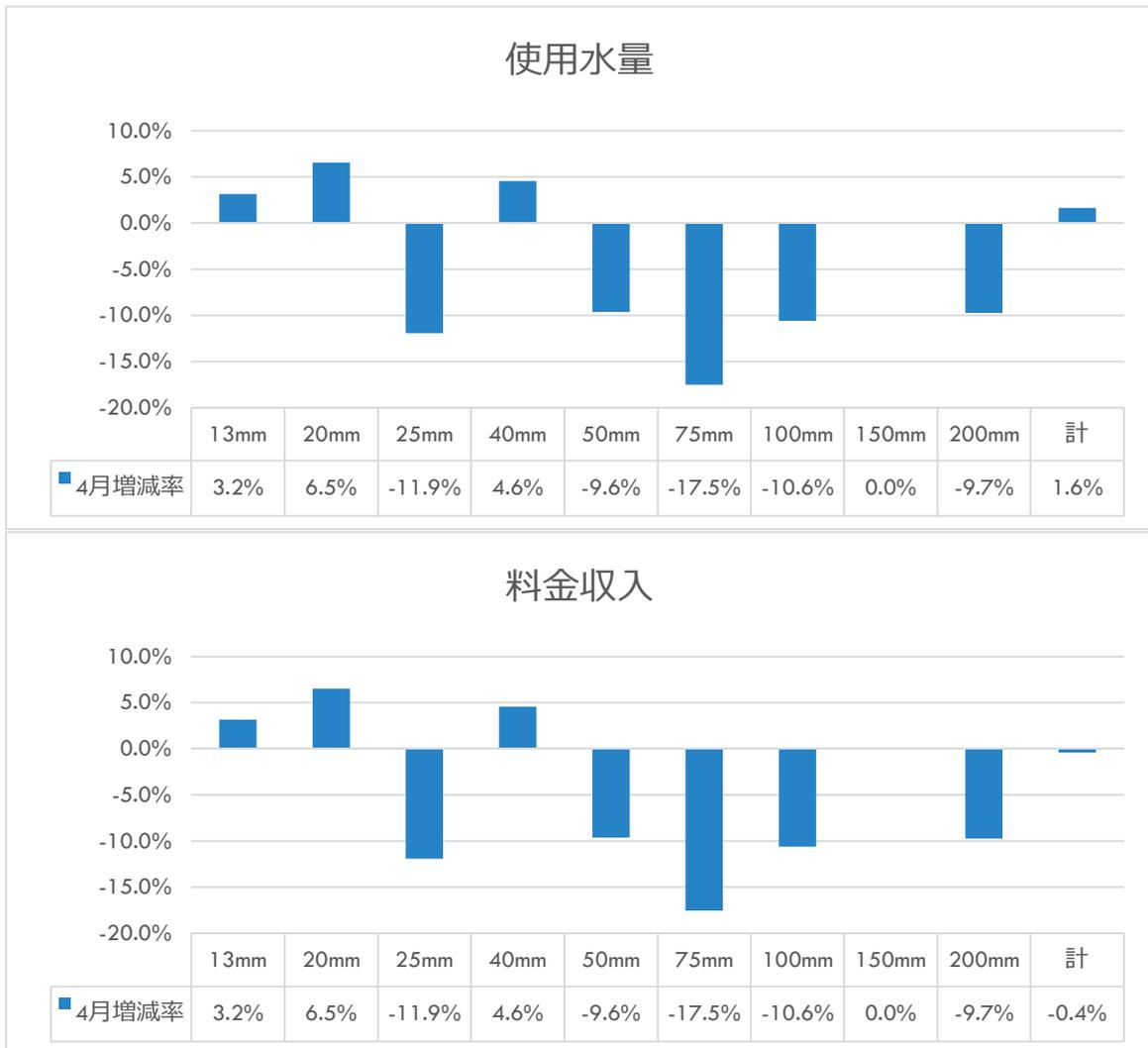
令和2年4月の検針データを前年と比較すると、下表にまとめたとおり主に家事用に用いられる口径13mmと20mmのメーターでは水量、金額ともに増え、主に業務用となる口径25mm以上のメーターではともに減少しています。また、全体では、水量は増え料金は減少していますが、これは昨年度には見られなかった変化です。

この変化から、使用水量が多い業務用で用いられる従量料金単価の高い区分での使用水量が減り、使用水量が少ない家事用で用いられる単価が低い区分での使用が増えたことがわかりますが、その結果、供給単価（1m³当たりの収入）は、2.44円減少しています。使用水量が増えたことにより、原水浄水費の支出は増えていますが、その販売収入は減るという経営上好ましくない傾向が現れています。

検針年	区分	20mm以下	25mm以上	合計
H31 (2019)	水量 (m ³)	1,280,315	300,383	1,580,698
	金額(税抜き:円)	123,548,890	68,079,595	191,628,485
	供給単価(円)	96.50	226.64	121.23
R2 (2020)	水量 (m ³)	1,329,407	277,242	1,606,649
	金額(税抜き:円)	128,317,930	62,542,015	190,859,945
	供給単価(円)	96.52	225.59	118.79
増減	水量 (m ³)	49,092	△23,141	25,951
	増減率	3.8%	△7.7%	1.6%
	金額(税抜き:円)	4,769,040	△5,537,580	△768,540
	増減率	3.9%	△8.1%	△0.4%
	供給単価(円)	0.02	△1.06	△2.44
	増減率	0.0%	△0.5%	△2.0%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 13、20、40mm で使用水量、料金収入がともに増え、他の口径では、すべて使用水量、料金収入ともに減少しています。合計では、使用水量は 1.6%増加し、料金収入は 0.4%減少しました。



結論

平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月までの間における月ごとの使用水量と料金収入を前年同月と比較した結果、使用水量の変動率は△4.2%～2.5%、料金収入の変動率は△4.4%～5.5%の範囲です。令和 2 年 4 月における変動は、この範囲に収まるものであり、好ましくない傾向は現れたものの、大きな影響が現れているとは言い切れませんでした。